

2024年(令和6年)の新ゴム消費予想量

この予想は、主要製品(業種)別に検討された当年の新ゴム消費予想量をもとに、当会で策定したものである。

ゴム工業での消費予想量

2023年を振り返ると、ロシア・ウクライナ戦争の長期化に加え、10月にはイスラエル・ハマス戦争が勃発するなど国際情勢は混迷を深めたが、国内は欧米に遅れる形でコロナ禍からの脱却が進み、社会活動は概ね正常化した。国内経済は、日銀による金融緩和が継続される一方、米国では金利上昇にもかかわらず堅調な景気が続いたことから円安が大幅に進行した。この結果、賃金上昇以上に物価上昇が進んだため、個人消費や設備投資の拡大には至らなかった(2023年度の主要経済指標: 鉱工業生産指数-0.8%、GDP<実質>1.6%、民間企業設備投資<実質>0.0%)。一方、関連業界については、国内自動車生産台数が半導体の供給制約の緩和に伴い、順調な回復を示した。

このような状況下、主力の自動車タイヤは、国内出荷・輸出(いずれもゴム量ベース)ともに前年を下回った。工業用品は、自動車生産の回復がプラス要因となったものの、品目によって傾向が分かれた。この結果、国内ゴム工業の新ゴム消費量は、1,227.3千トン、前年比-1.1%と減少の見込みとなった。

なお、2024年は、景気回復や主要な自動車関連産業の伸びを期待して、1,242.4千トン、前年比+1.2%の予想である(表-1)。

表-1 ゴム工業における新ゴム消費量

	2022年 (R4年) (実績)	2023年 (R5年) (見込み)	2024年 (R6年) (予想)
消費量(千トン)	1,241.2	1,227.3	1,242.4
前年比(%)	98.7	98.9	101.2

(注) 本表の消費量は2023年末に策定された各業種団体等の予想および経済産業省統計の実績(1~10月)を基にとりまとめている。

主要製品別の新ゴム消費の内訳は、表－２のとおりである。

表－２ 主要製品別の 2023 年の新ゴム消費見込みと 2024 年の消費予想

(単位:トン)

製 品 別	2022 (R4年)		2023 (R5年)		2024 (R6年)	
	(実績)	前年比	(見込み)	前年比	(予想)	前年比
タ イ ヤ 類	1,017,040	% 99.1	993,890	% 97.7	1,000,610	% 100.7
自動車タ・チ	1,003,020	98.8	978,950	97.6	984,820	100.6
その他のタイヤ類	14,020	118.6	14,940	106.6	15,790	105.7
工 業 用 品 類	206,120	96.8	215,300	104.5	223,160	103.7
ゴムベルト	17,990	94.5	16,550	92.0	16,220	98.0
ゴムホース	32,720	101.1	33,730	103.1	34,880	103.4
その他の工業用品	155,410	96.2	165,020	106.2	172,060	104.3
そ の 他 製 品 類	18,040	102.9	18,110	100.4	18,630	102.9
ゴム履物類	920	75.4	860	93.5	860	100.0
その他のゴム製品	17,120	105.0	17,250	100.8	17,770	103.0
ゴム製品計	1,241,200	98.7	1,227,300	98.9	1,242,400	101.2

- (注)①タイヤ類はJATMA統計による。「自動車タ・チ」には運搬車タ・チ、フラップ・リムバンドを含み、「その他のタイヤ類」には、更生タイヤ用練生地(経済省統計)を含む。
工業用品類およびその他製品類は経済産業省の生産動態統計をベースとし、その他製品類の「その他のゴム製品」には 当会のゴム引布製品の統計を含めている。
- ② 工業用品類のうち「その他の工業用品」は、防振ゴム、各種パッキン、スポンジ製品、ゴム板、ゴムロール、防舷材、ゴムライニング等とする。
- ③ その他製品類のうち「ゴム履物類」は、ゴム底布靴、総ゴム靴等とし、「その他のゴム製品」は運動競技用品、医療衛生用品のほか、ゴム手袋、ゴム引布、家庭用品、事務用品等とする。

主要製品別の当年の新ゴム消費予想の内訳：

(1) タイヤ類（1,000,610 トン、前年比 100.7%）

○ 自動車タイヤ・チューブ

新車用は、国内乗用車生産がコロナ禍からの回復傾向が続くと見込まれ、合計で前年を上回ると予測した。

市販用は、物価高の影響で減少した前年と比べ、夏用タイヤは横ばい、冬用タイヤは若干の減少と予測した。

輸出用は、前年同様、タイヤ本数は伸びるものの、ゴム量では減少と予測した。

以上を総合して、当年の自動車タイヤ・チューブの生産は、新ゴム量ベースでは 984,820 トン、前年比 100.6%と予想した。

○ その他のタイヤ類

更生タイヤについては、環境志向の高まりや新品タイヤの価格上昇に伴う経済的背景により、リトレッドタイヤの需要が増加傾向であることから、前年を上回ると予測した。

その他についても、旅客需要がコロナ禍以前の水準に戻ると見込まれること等を勘案し、全体では新ゴム量ベースで 15,790 トン、前年比 105.7%と予想した。

(2) 工業用品類（223,160 トン、前年比 103.7%）

○ ゴムベルト

主力のコンベヤベルトは、国内向けで、自動車の増産に伴って鉄鋼メーカー向け需要が回復して前年を上回るが、輸出向けは、海外景気の低迷を受けて鉱山需要が大幅に落ち込むと見込まれることから、全体では前年を下回り、コロナ禍前の 2019 年比で約 6 割の水準と予測した。

一方、伝動ベルトは、自動車用や工作機械用が回復し、内需、輸出とも増加すると見込まれるため、コロナ禍前の水準に近づくと予測した。

以上を総合して、当年のゴムベルトの生産は、新ゴム消費量ベースで 16,220 トン、前年比 98.0%と予想した。

○ ゴムホース

ゴムホースは、自動車用ホース（新ゴム消費量ベースでゴムホース全体の約7割を占める）について、自動車産業で車載半導体や部品の供給制約解消を受けた好調な生産が続くと見て、前年を上回ると予測した。また、高圧用ホースは、流通在庫が解消するものの、主な需要先の土木建設機械で生産がピークを越えたとの見方があり、工作機械向けも需要回復の遅れが見込まれることから、前年並みと予測した。

以上により、当年のゴムホース生産による新ゴム消費量は34,880トン、前年比103.4%と予想した。

○ その他の工業用品

その他の工業用品について品目別にみると、防振ゴムは、自動車産業で半導体不足による受注残の解消を含む増産が進むとみて、+3.5%と予測した。パッキン類は、自動車など関連する主要な産業での増産を見込み、+2.9%と予想した。スポンジ製品も、主力の自動車向けで顧客の増産が見込まれることから、+7.4%と予測した。ゴムロールは、製紙用で電子化・ペーパーレス化、製鉄用で客先の設備統合が進み減少傾向が続くが、印刷用では景気動向も踏まえ、その他用とともに前年並みと見込み、-2.0%と予測した。ライニングは、主力の化学工業用（ソーダ用）や鉄鋼用で2桁減となるものの、水処理向けと電力向けで大幅な伸びが見込まれることから、全体では+3.0%と予測した。防舷材は、アフターコロナによる民間の設備投資や取替需要が増える見込みで、+10.0%と予測した。ゴム板は、汎用品で横ばいと見込まれるが、自動車や半導体の市況回復に伴う増産により、+2.4%と予測した。

以上を総合して、その他の工業用品での新ゴム消費量は172,060トン、前年比104.3%と予想した。

(3) その他製品類（18,630トン、前年比102.9%）

○ ゴム履物

ゴム履物は、前年に原材料価格の高騰、円安、物価高等の影響でゴム底布靴の生産が減少しており、本年も同様の影響が残るものの、前年と同水準を見込み、860トン、前年比100.0%と予想した。

○ その他のゴム製品

その他のゴム製品について、医療衛生用品は、外出者や訪日客が増えてきていることに加え、海外向け製品の増加等もあり、+5.8%と予測した。運動競技用品は、競技用ボールで、部活動の縮小や見直し等による競技人口減少の影響はあるものの、競技大会等はコロナ禍を経てほぼ通常開催に戻っており、円安による海外需要の増加も見込まれる。また、ゴルフ用ボールも国内での増産や海外需要が増加すると見込み、全体で+3.9%と予測した。ゴム手袋は、家庭用および医療用で前年並みと見込まれる一方、使い捨てタイプの手袋はコロナ禍で広がった需要に対して供給面も安定しており、作業用手袋も好調な業種等での工場稼働率上昇がけん引し、ともに増加が見込まれることから、全体では+3.0%と予測した。ゴム引布は、原材料価格高騰等の課題もあるが、加工品での需要増を見込み、+2.5%と予測した。

以上により、全体では、新ゴム消費量で 17,770 トン、前年比 103.0%と予想した。

(付) ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費割合

2024 年のゴム工業における新ゴム消費量 1,242.4 千トン（前年見込み比 101.2%）のうち、天然ゴムと合成ゴムの消費内訳は、天然ゴムが 665.9 千トン（同 101.2%）、合成ゴムが 576.5 千トン（同 101.2%）の予想である（天然ゴムの使用比率は 53.6%）（表－3）。

表－3 ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費内訳

(単位:千トン)

	2022年 (R4年) (実績)	2023年 (R5年) (見込み)	前年比	2024年 (R6年) (予想)	前年比
			%		%
天然ゴム	667.4	657.8	98.6	665.9	101.2
合成ゴム	573.8	569.5	99.3	576.5	101.2
合計	1,241.2	1,227.3	98.9	1,242.4	101.2
天然ゴムの 使用比率(%)	53.8	53.6	-0.2	53.6	±0.0

以上

<参考①>

ゴム工業とゴム工業以外での新ゴム消費量：

(単位：千トン)

	2022年 (R4年) (実績)	2023年 (R5年) (見込み)	前年比	2024年 (R6年) (予想)	前年比
				%	
ゴム工業	1,241.2	1,227.3	98.9	1,242.4	101.2
ゴム工業以外	209.4	191.1	91.3	189.0	98.9
合計	1,450.6	1,418.4	97.8	1,431.4	100.9

<参考②>

1. 四輪車の生産台数：

	2022年 (R4年) (実績)	2023年 (R5年) (見込み)	2024年 (R6年) (予想)
生産台数(千台)	7,835	8,950	9,108
前年比(%)	99.8	114.2	101.8

(注) 2023年の見込みおよび2024年の予想台数は、
一般社団法人日本自動車タイヤ協会の見通し数字による。

2. 2024年度の主要経済指標の対前年度増減率：

実質国内総生産(GDP)	1.3
実質民間最終消費	1.2
実質民間企業設備投資	3.3
鉱工業生産指数	2.3
為替レート(円/ドル)	149.8

(注)「令和6年度の経済見通しと経済財政運営の
基本的態度」(2023.12.21閣議了解)より